

現計画・戦略の進捗と検証

目次

- I 現計画・戦略の進捗状況—————P 0 2
- II 現計画の検証と今後の取組の方向性———P 1 0

令和7年6月

I 現計画・戦略の進捗状況

1. 現計画「チェンジ&チャレンジ2025」の進捗状況 (1) 施策体系

基本理念

基本理念を実現するための3つの柱

基本戦略

施策

人・産業・地域を結び、新たな時代を生き抜く力強い長崎県づくり

1

地域で活躍する人材を育て、未来を切り拓く
(人材を育て、未来を切り拓く)

① 若者の県内定着、地域で活躍する人材の育成を図る

② 移住対策の充実、関係人口の幅広い活用を推進する

③ 長崎県の未来を創る子ども、郷土を愛する人を育てる

④ みんなで支えあう地域を創る

- ① 将来を担う若者の就業支援と魅力的な職場づくりの促進 ●
- ② 大学と連携した地域が求める人材の育成と地元定着の推進 ●
- ③ 男女が性別にかかわらず個性と能力を発揮できる社会づくり ●
- ④ キャリア教育の推進と企業を支える人材の育成・確保 ●
- ⑤ 地域に密着した産業の担い手の確保・育成 ●
- ⑥ 医療・介護・福祉人材の育成・確保 ●
- ⑦ 外国人材の活用による産業、地域の活性化 ●
- ⑧ いつまでも健康で生涯を通じて学び、活躍できる社会の実現 ●

- ① ながさき暮らしUターン対策の推進 ●
- ② 関係人口との交流促進による地域活力の向上、移住者の裾野の拡大 ●

- ① 結婚、妊娠・出産から子育てまでの一貫した支援 ●
- ② 郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材の育成 ●
- ③ 安心して子育てできる環境づくり ●
- ④ 学力の向上と一人一人に対応した教育の推進 ●
- ⑤ グローバル化社会を生き抜く力を持った人材づくり ●
- ⑥ 安全・安心が確保された教育環境の整備 ●
- ⑦ 「地域みんなで子どもを育み、家庭教育を支援する」体制づくり ●

- ① 誰もが安心して暮らし、社会参加できる地域共生社会の推進 ●
- ② きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援 ●

2

力強い産業を育て、魅力あるしごとを生み出す
(産業を育て、しごとを生み出す)

① 新しい時代に対応した力強い産業を育てる

② 交流人口を拡大し、海外の活力を取り込む

③ 環境変化に対応し、一次産業を活性化

- ① 成長分野の新産業創出・育成 ●
- ② スタートアップの創出 ●
- ③ 製造業・サービス産業の地場企業成長促進 ●
- ④ 戦略的、効果的な企業誘致の推進 ●

- ① 地域に新たな価値を付加する魅力ある観光まちづくりの推進 ●
- ② 県産品のブランド化と販路拡大 ●
- ③ アジアをはじめとした海外活力の取り込み ●

- ① 農林業の収益性の向上に向けた生産・流通・販売対策の強化 ●
- ② 漁業所得の向上と持続可能な生産体制の整備 ●
- ③ 養殖業の成長産業化と加工・供給体制の強化 ●

3

夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る
(希望のあるまちを創り、明日へつなぐ)

① 人口減少に対応できる持続可能な地域を創る

② 地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る

③ 安全安心で快適な地域を創る

- ① 地域活動を行う多様な主体が支えあう、持続可能な地域づくりの推進 ●
- ② 地域の活力と魅力にあふれる農山漁村づくり ●
- ③ 地域の医療、介護等のサービス確保 ●
- ④ 離島・半島等のくらしと交流を支える地域公共交通の確保 ●
- ⑤ ICTを活用した地域活性化と行政運営の効率化 ●
- ⑥ 持続可能なインフラの整備及び利活用 ●

- ① 人流・物流を支える交通ネットワークの確立 ●
- ② 九州新幹線西九州ルートの整備と開業効果の拡大 ●
- ③ 持続可能で魅力ある都市・地域づくり ●
- ④ しまや半島など地域活性化の推進 ●
- ⑤ 特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化 ●
- ⑥ 国際交流と平和発信の推進 ●

- ① 犯罪や交通事故のない安全・安心なまちづくりの推進 ●
- ② 食品の安全・安心の確保と消費生活の安定・向上 ●
- ③ 災害に強く、命を守る強靱な地域づくり ●
- ④ 豊かできれいな海づくり、くらしやすい環境づくりの推進 ●
- ⑤ 脱炭素社会の実現を目指した快適なライフスタイルの普及 ●
- ⑥ 人と自然が共生する持続可能な地域づくり ●

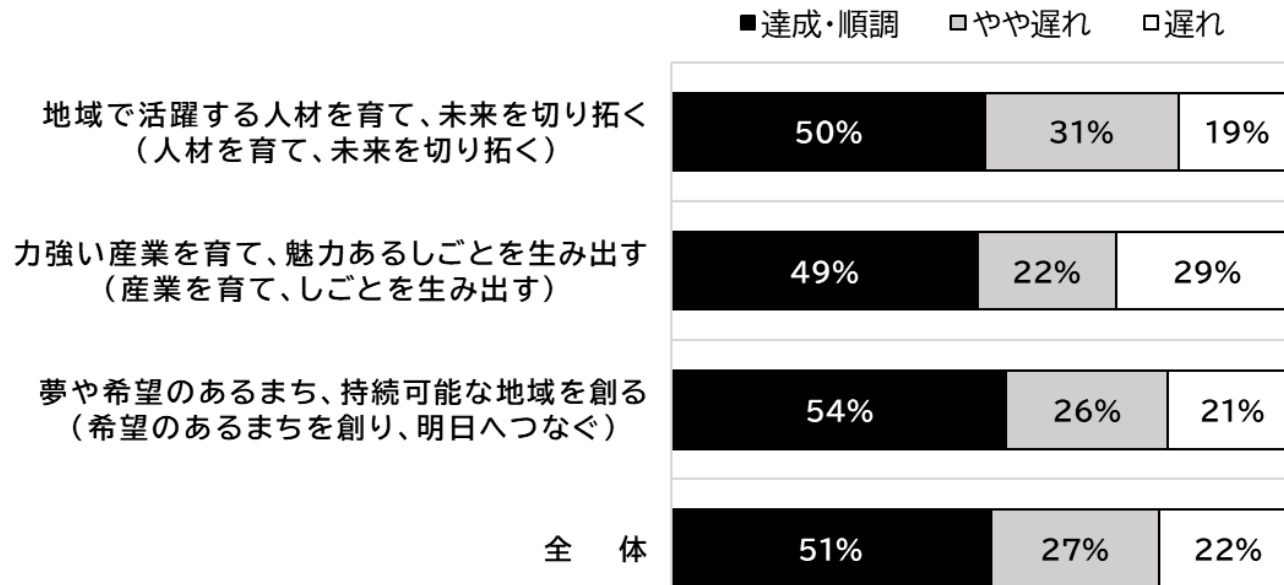
1. 現計画「チェンジ&チャレンジ2025」の進捗状況 (2) 令和5年度実績

令和5年度(2023年度)の進捗状況

施策65指標、事業群212指標、計277指標について集計・分析

- ◆「達成・順調」となった指標数は全277項目のうち136項目であり、全体の51%程度
- ◆柱1「地域で活躍する人材を育て、未来を切り拓く」は就職、教育、結婚、子育て等個人の価値観の影響や市町の動向等県の出組以外の要因が複合的に影響する指標もあり、進捗状況は前年度とほぼ同様
- ◆柱2「力強い産業を育て、魅力あるしごとを生み出す」は観光や一次産業に関する指標を多く設定していることもあり、コロナ禍の影響が残る分野が一部あるほか、エネルギーや資材の高騰など社会経済情勢の影響を受け、「遅れ」の割合が高い
- ◆柱2「力強い産業を育て、魅力あるしごとを生み出す」及び柱3「夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る」では、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことによる人流・物流の回復により、実績値は前年度から改善傾向

【図1】 3つの柱毎の指標の進捗状況



※各数値は四捨五入による端数処理のため合計が100%にならない場合があります。

1. 現計画「チェンジ＆チャレンジ2025」の進捗状況 (2) 令和5年度実績

施策別の進捗状況(柱1)

- ◆県内高校生の県内就職、外国人材の活用、関係人口の拡大、子育て環境や教育環境の整備に関する施策の進捗状況は順調
- ◆県内大学生の県内就職、合計特殊出生率、生活困窮者やひとり親家庭等支援を必要とする者達に関する施策の進捗に遅れがみられる

【表】施策別の進捗状況

3つの柱	基本戦略	施策名		達成状況
地域で活躍する人材を育て、未来を切り拓く	1-1	施策1	将来を担う若者の就業支援と魅力的な職場づくりの促進	やや遅れ
		施策2	大学と連携した地域が求める人材の育成と地元定着の推進	遅れ
		施策3	男女が性別にかかわらず個性と能力を発揮できる社会づくり	やや遅れ
		施策4	キャリア教育の推進と企業を支える人材の育成・確保	順調
		施策5	地域に密着した産業の担い手の確保・育成	やや遅れ
		施策6	医療・介護・福祉人材の育成・確保	やや遅れ
		施策7	外国人材の活用による産業、地域の活性化	順調
		施策8	いつまでも健康で生涯を通じて学び、活躍できる社会の実現	順調
	1-2	施策1	ながさき暮らしUIターン対策の推進	やや遅れ
		施策2	関係人口との交流促進による地域活力の向上、移住者の裾野の拡大	順調
	1-3	施策1	結婚、妊娠・出産から子育てまでの一貫した支援	遅れ
		施策2	郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材の育成	やや遅れ
		施策3	安心して子育てできる環境づくり	順調
		施策4	学力の向上と一人一人に対応した教育の推進	順調
		施策5	グローバル化社会を生き抜く力を持った人材づくり	遅れ
		施策6	安全・安心が確保された教育環境の整備	順調
		施策7	「地域みんなで子どもを育み、家庭教育を支援する」体制づくり	順調
	1-4	施策1	誰もが安心して暮らし、社会参加できる地域共生社会の推進	遅れ
		施策2	きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援	遅れ

1. 現計画「チェンジ&チャレンジ2025」の進捗状況 (2) 令和5年度実績

施策別の進捗状況(柱2)

- ◆スタートアップの創出や誘致、県産品の販路拡大、漁業所得に関する施策の進捗状況は順調
- ◆観光まちづくり、国際航空路線やクルーズ客船等による海外活力の取り込み、農業産出額に関する施策の進捗に遅れがみられる

3つの柱	基本戦略	施策名		達成状況
力強い産業を育て、魅力あるしごとを生み出す	2-1	施策1	成長分野の新産業創出・育成	—
		施策2	スタートアップの創出	順調
		施策3	製造業・サービス産業の地場企業成長促進	やや遅れ
		施策4	戦略的、効果的な企業誘致の推進	やや遅れ
	2-2	施策1	地域に新たな価値を付加する魅力ある観光まちづくりの推進	遅れ
		施策2	県産品のブランド化と販路拡大	順調
		施策3	アジアをはじめとした海外活力の取り込み	遅れ
	2-3	施策1	農林業の収益性の向上に向けた生産・流通・販売対策の強化	遅れ
		施策2	漁業所得の向上と持続可能な生産体制の整備	順調
		施策3	養殖業の成長産業化と加工・供給体制の強化	やや遅れ

1. 現計画「チェンジ&チャレンジ2025」の進捗状況 (2)令和5年度実績

施策別の進捗状況(柱3)

- ◆農山漁村の活性化、地域医療、ICT活用、脱炭素社会づくりに関する施策の進捗状況は順調
- ◆文化・スポーツによる地域活性、防犯や交通安全に関する施策は進捗に遅れがみられる

3つの柱	基本戦略	施策名		達成状況
夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る	3-1	施策1	地域活動を行う多様な主体が支えあう、持続可能な地域づくりの推進	やや遅れ
		施策2	地域の活力と魅力にあふれる農山漁村づくり	順調
		施策3	地域の医療、介護等のサービス確保	達成
		施策4	離島・半島等のくらしと交流を支える地域公共交通の確保	やや遅れ
		施策5	ICTを活用した地域活性化と行政運営の効率化	順調
		施策6	持続可能なインフラの整備及び利活用	やや遅れ
	3-2	施策1	人流・物流を支える交通ネットワークの確立	順調
		施策2	九州新幹線西九州ルート整備と開業効果の拡大	達成
		施策3	持続可能で魅力ある都市・地域づくり	やや遅れ
		施策4	しまや半島など地域活性化の推進	やや遅れ
		施策5	特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化	遅れ
		施策6	国際交流と平和発信の推進	やや遅れ
	3-3	施策1	犯罪や交通事故のない安全・安心なまちづくりの推進	遅れ
		施策2	食品の安全・安心の確保と消費生活の安定・向上	やや遅れ
		施策3	災害に強く、命を守る強靱な地域づくり	順調
		施策4	豊かできれいな海づくり、くらしやすい環境づくりの推進	遅れ
		施策5	脱炭素社会の実現を目指した快適なライフスタイルの普及	順調
		施策6	人と自然が共生する持続可能な地域づくり	順調

2. 現戦略「第2期 長崎県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況

全体的な進捗状況

- 下表のとおり、計120項目(再掲含む)のKPIについて、実績値が把握できていないもの等を除いた115項目(令和4年度:114項目)で見ると、その内、約50%となる58項目(令和4年度:54%、61項目)において「達成」又は「順調」、約30%となる34項目(令和4年度:約18%、21項目)において「やや遅れ」、約20%となる23項目(令和4年度:約28%、32項目)において「遅れ」となっており、令和4年度と比べ、評価可能KPI数が1項目増え、目標達成・順調となっているものが3項目減、目標未達成だが改善傾向にあるものが13項目増、目標未達成かつ進捗に課題があるものが9項目減であり、全体的な進捗としては目標達成に向けて着実に取り組んでいると思われる。
- 基本目標毎で見ると、
 【①ひと】では、県内高校生の県内就職の促進や外国人労働者数など約85%において、目標を達成または改善傾向であるものの、県内大学生の県内就職の促進などに遅れがみられる。
 【②しごと】では、誘致企業及び県支援を受けた地場企業の雇用計画数や県産品の輸出額の増加など約74%において、目標を達成または改善傾向であるものの、観光消費額や延べ宿泊者数などに遅れがみられる。
 【③まち】では、農山漁村地域への移住者数の増加や空き家活用団体等により活用される空き家の数など約82%において、目標を達成または改善傾向であるものの、しまの人口の社会増減数などに遅れがみられる。
- 令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後、県内の経済情勢は生産活動の持ち直しや所得環境の改善などから緩やかに持ち直している状況にあり、地域経済社会をはじめ様々な分野においてコロナ禍以前に戻りつつあり、こうした情勢の変化に的確に対応し、施策の充実・強化を図りながら、一層の施策の推進を図る必要がある。

※基本的方向別の KPI 進捗状況(順調・遅れ等)は以下に記載

KPIの進捗状況

基本目標	K P I 進捗状況 (R6.11時点)					
	総数 ①	実績 未把握等 ②	評価可能 KPI数 ③ (①－②)	(③の内訳)		
				達成・順調 (単年度または最 終目標達成)	やや遅れ (目標未達成だが 改善傾向)	遅れ (目標未達成かつ 進捗に課題あり)
①地域で活躍する人材を育て、未来を切り拓く【ひと】	35	1	34	14 41%	15 44%	5 15%
②力強い産業を育て、魅力あるしごとを生み出す【しごと】	49	2	47	23 49%	12 26%	12 26%
③夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る【まち】	36	2	34	21 62%	7 21%	6 18%
合計	120	5	115	58 50%	34 30%	23 20%

※各数値は四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならない場合があります。

2. 現戦略「第2期 長崎県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況

(1)人材を育て、未来を切り拓く		R2	R3	R4	R5	進捗状況	R6	R7
①転出超過数を33%程度改善させる (累計)	目標値	1.7%程度改善 (630人)	5.4%程度改善 (1,970人)	10.5%程度改善 (3,820人)	16.5%程度改善 (6,000人)	やや遅れ	24.1%程度改善 (8,740人)	33.0%程度改善 (12,000人)
	実績値	0.8%悪化 (299人悪化)	2.3%悪化 (868人悪化)	5.7%改善 (2,106人改善)	11.2%改善 (4,105人改善)			
①-1県内高校生の県内就職率を68%に 引き上げる(H31.3:61.1%)	目標値	65.5%	66.0%	66.5%	67.0%	順調	67.5%	68.0%
	実績値	69.9%	72.1%	69.6%	68.5% 			
①-2県内大学生の県内就職率を50%に 引き上げる(H31.3:41.0%)	目標値	42.5%	44.0%	45.5%	47.0%	遅れ	48.5%	50.0%
	実績値	40.8%	40.8%	42.7%	40.4%			
①-3県内移住者(単年度)を3,200人に 引き上げる(H30:1,121人)	目標値	1,500人	2,000人	2,400人	2,700人	やや遅れ	3,000人	3,200人
	実績値	1,452人	1,740人	1,876人	2,075人			
①-4福岡県及び首都圏の大学等に進学 した長崎県出身者のUターン就職者数を 340人に引き上げる(H31.3:204人)	目標値	240人	260人	280人	300人	やや遅れ	320人	340人
	実績値	248人	269人	232人	257人			
①-5県内外外国人労働者数(技能実習、特 定技能)を5,012人に引き上げる (H30:2,462人)	目標値	2,582人	2,872人	3,237人	3,597人	順調	4,102人	5,012人
	実績値	3,188人	3,043人	4,120人	5,751人 			
②合計特殊出生率を1.93まで引き上げる (H30:1.68)	目標値	1.75	1.79	1.82	1.86	遅れ	1.89	1.93
	実績値	1.61	1.60	1.57	1.49			

(2)産業を育て、しごとを生み出す		R2	R3	R4	R5	進捗状況	R6	R7
③誘致企業及び県支援を受けた地場企業の 雇用計画数を3,600人とする (累計)	目標値	600人	600人	600人	600人	達成	600人	600人
	実績値	1,151人	1,602人	346人	1,053人 			
④観光消費額(総額)を4,137 億円に引き 上げる (H30:3,778億円)	目標値	3,896億円	3,944億円	3,992億円	4,040億円	遅れ	4,089億円	4,137億円
	実績値	1,873億円	1,859億円	2,731億円	3,535億円			

(3)希望のあるまちを創り、明日へつなぐ		R2	R3	R4	R5	進捗状況	R6	R7
⑤持続可能な地域づくりに取り組む地域(団体)数を220に引き上げる (H30:74団体)	目標値	130	160	190	160	やや遅れ	190	220
	実績値	103	118	132	158			
⑥各地域において地域の特色を活かし、広域連携や九州各県等と連携した地域づくりを推進する	目標値	※具体的な数値目標は設定していないが、各地域でプロジェクトを推進中 県北地域（肥前窯業圏）の活性化、九州・山口が一体となった移住促進プロジェクト 等						
	実績値							

Ⅱ 現計画の検証と今後の取組の方向性

人・産業・地域を結び、新たな時代を生き抜く力強い長崎県づくり

1

地域で活躍する人材を育て、未来を切り拓く

(人材を育て、未来を切り拓く)

2

力強い産業を育て、魅力あるしごとを生み出す

(産業を育て、しごとを生み出す)

3

夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る

(希望のあるまちを創り、明日へつなぐ)

① 若者の県内定着、地域で活躍する人材の育成を図る

② 移住対策の充実、関係人口の幅広い活用を推進する

③ 長崎県の未来を創る子ども、郷土を愛する人を育てる

④ みんなで支えあう地域を創る

① 新しい時代に対応した力強い産業を育てる

② 交流人口を拡大し、海外の活力を取り込む

③ 環境変化に対応し、一次産業を活性化

① 人口減少に対応できる持続可能な地域を創る

② 地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る

③ 安全安心で快適な地域を創る

- ① 将来を担う若者の就業支援と魅力的な職場づくりの促進 ●
- ② 大学と連携した地域が求める人材の育成と地元定着の推進 ●
- ③ 男女が性別にかかわらず個性と能力を発揮できる社会づくり ●
- ④ キャリア教育の推進と企業を支える人材の育成・確保 ●
- ⑤ 地域に密着した産業の担い手の確保・育成 ●
- ⑥ 医療・介護・福祉人材の育成・確保 ●
- ⑦ 外国人材の活用による産業、地域の活性化 ●
- ⑧ いつまでも健康で生涯を通じて学び、活躍できる社会の実現 ●

- ① ながさき暮らしUターン対策の推進 ●
- ② 関係人口との交流促進による地域活力の向上、移住者の裾野の拡大 ●

- ① 結婚、妊娠・出産から子育てまでの一貫した支援 ●
- ② 郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材の育成 ●
- ③ 安心して子育てできる環境づくり ●
- ④ 学力の向上と一人一人に対応した教育の推進 ●
- ⑤ グローバル化社会を生き抜く力を持った人材づくり ●
- ⑥ 安全・安心が確保された教育環境の整備 ●
- ⑦ 「地域みんなで子どもを育み、家庭教育を支援する」体制づくり ●

- ① 誰もが安心して暮らし、社会参加できる地域共生社会の推進 ●
- ② きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援 ●

- ① 成長分野の新産業創出・育成 ●
- ② スタートアップの創出 ●
- ③ 製造業・サービス産業の地場企業成長促進 ●
- ④ 戦略的、効果的な企業誘致の推進 ●

- ① 地域に新たな価値を付加する魅力ある観光まちづくりの推進 ●
- ② 県産品のブランド化と販路拡大 ●
- ③ アジアをはじめとした海外活力の取り込み ●

- ① 農林業の収益性の向上に向けた生産・流通・販売対策の強化 ●
- ② 漁業所得の向上と持続可能な生産体制の整備 ●
- ③ 養殖業の成長産業化と加工・供給体制の強化 ●

- ① 地域活動を行う多様な主体が支えあう、持続可能な地域づくりの推進 ●
- ② 地域の活力と魅力にあふれる農山漁村づくり ●
- ③ 地域の医療、介護等のサービス確保 ●
- ④ 離島・半島等のくらしと交流を支える地域公共交通の確保 ●
- ⑤ ICTを活用した地域活性化と行政運営の効率化 ●
- ⑥ 持続可能なインフラの整備及び利活用 ●

- ① 人流・物流を支える交通ネットワークの確立 ●
- ② 九州新幹線西九州ルートの整備と開業効果の拡大 ●
- ③ 持続可能で魅力ある都市・地域づくり ●
- ④ しまや半島など地域活性化の推進 ●
- ⑤ 特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化 ●
- ⑥ 国際交流と平和発信の推進 ●

- ① 犯罪や交通事故のない安全・安心なまちづくりの推進 ●
- ② 食品の安全・安心の確保と消費生活の安定・向上 ●
- ③ 災害に強く、命を守る強靱な地域づくり ●
- ④ 豊かできれいな海づくり、くらしやすい環境づくりの推進 ●
- ⑤ 脱炭素社会の実現を目指した快適なライフスタイルの普及 ●
- ⑥ 人と自然が共生する持続可能な地域づくり ●

主な数値目標の状況

産業労働部、県民生活環境部、文化観光国際部、水産部、農林部、福祉保健部、教育庁

- ❑ 県内高校生の県内就職率(68.5%)は、前年度から低下したものの、R5年度目標値(67.0%)を上回っている
- ❑ 県内大学生の県内就職率(40.4%)は、前年度から低下し、R5年度目標値(47.0%)を下回っている
- ❑ 福岡県及び首都圏の大学等に進学した長崎県出身者のUターン就職数(257人)は、前年度から増加したものの、R5年度目標値(300人)を下回っている
- ❑ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきとの考え方に反対の人の割合(54.0%)は、前年度から増加したものの、R5年度目標値(54.9%)を下回っている
- ❑ 県内の外国人労働者数(技能実習、特定技能)(5,751人)は、前年度から増加し、R5年度目標値(3,597人)を上回っている
- ❑ 医師確保計画において認定される医師少数区域数(0区域)は、前年度から改善し、最終目標値(0区域)を達成している
- ❑ 介護職員数(29,264人)は、基準値から増加しているものの、進捗にやや遅れがみられる
- ❑ 認定農業者数(5,034経営体)は、前年度から減少し、R5年度目標値(5,500経営体)を下回っている
- ❑ 海面漁業・養殖業産出額(1,238億円)は、前年度から増加し、R5年度目標値(1,024億円)を上回っている
- ❑ ながさき県民大学(主催講座)における受講者の満足度(99.3%)は、前年度から増加し、R5年度目標(98%以上)を上回っている

課題等

- 若者・女性の県外流出や少子高齢化の進行に伴う生産年齢人口の減少
- 国際的な人材獲得競争の激化、長期に産業を支える外国人材を育成・確保する「育成就労制度」への対応
- 社会全体における固定的な性別役割分担意識の存在
- 都市部と離島・へき地との間の医師の地域偏在、全国平均を下回る健康寿命

次期計画での主な取組

- 教育機関、企業、市町等と連携した県内企業の魅力発信や県内高校生・大学生の県内就職、県外大学からのUIターン就職支援(しごと創造3-1-5)
- あらゆる分野における男女共同参画(くらし2-2-2)、企業での女性活躍の拡大、女性のライフステージに応じたキャリア形成支援(しごと創造3-2-2)、柔軟な働き方の導入促進、求職者支援(しごと創造3-2-1)
- 外国人材の受入体制整備、本県の魅力発信(しごと創造3-1-6)、外国人住民のコミュニケーション支援や相談対応、相互理解の促進(くらし2-2-3)
- 農林水産業の担い手の県内外からの呼び込みと受入体制の充実、定着サポート強化(しごと創造3-3-3)
- 医療・介護人材の育成・確保・定着(くらし2-1-2)、健康づくりの推進、高齢者の社会参加促進、地域スポーツの活性化(くらし2-1-1)

主な数値目標の状況

- 県や市町の窓口を通じた移住者数(2,075人)は、基準値から大幅に増加したものR5年度目標値(2,700人)を下回っている
- 関係人口創出、または拡大につながる取組件数(8件)は、基準から増加し、R5年度目標値(7件)を上回っている

課題等

- 本県の社会減は改善傾向にあるものの、東京一極集中が継続
- デジタルノマドやワーケーションなどへの県民の理解、デジタルノマド受入に対応可能な人材育成

次期計画での主な取組

- UIターン等のターゲットに応じた効果的な情報発信、移住を後押しする支援(にぎわい4-1-5)
- デジタルノマドやワーケーション等の受入基盤づくり、誘致促進(にぎわい4-1-6)

主な数値目標の状況

こども政策局、教育庁、土木部

- ❑ 合計特殊出生率(1.49)は、前年度から低下しており、R5年度目標値(1.86)を下回っている
- ❑ ココロねっこ運動登録団体数(6,500件)は、前年度から増加し、R5年度目標値(6,360件)を上回っている
- ❑ 郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の割合(91.5%)は、前年度から増加しているものの、R5年度目標値(100%)を下回っている
- ❑ 県内公立高等学校卒業生において、進学希望者に対する進学決定率(99.3%)は、前年度から増加し、R5年度目標値(95.0%以上)を上回っている
- ❑ 高校卒業時にCEFR A2レベル相当以上の英語力を持つ生徒の割合(45.2%)は、前年度から増加したものの、R5年度目標値(50%以上)を下回っている

課題等

- 個人の価値観の多様化による様々なライフスタイルへの対応
- 子育て家庭の孤立化や経済的・精神的負担感の増大や地域コミュニティの中での成長の機会の減少
- 安心安全に妊娠・出産、子育てができる環境の確保や充実
- 高い語学力とリーダーシップを備えたグローバルな視野を持つ人材の必要性
- 教員のなり手不足への対応や離島・半島地域での小規模校化への対応
- 学校施設の老朽化や児童生徒・保護者のニーズ等の変化に伴う施設整備の必要性
- 通学路等での重大事故発生、インターネット利用による犯罪被害や心身の発達への懸念

次期計画での主な取組

- 県民総ぐるみの子育て支援、安全・安心で多様なこどもの居場所や体験の機会の充実(こども1-1-1)
- 保育・学校施設耐震化・老朽化対策、交通安全対策、インターネットやSNS等有害環境対策の強化(こども1-1-2)
- 郷土の未来を担う人材育成、グローバルな視野を持って予測困難な時代を生き抜く人材育成(こども1-1-3)
- 魅力ある学校づくりや教員の働きがい改革、ICT活用の推進(こども1-1-4)
- 結婚から子育てまでの切れ目ない支援と社会全体で結婚、妊娠・出産、子育てを応援する気運の醸成(こども1-2-1)
- こども時間の拡大に向けた職場環境の整備(こども1-2-2)、男女共同参画社会の実現に向けた共家事・共育ての促進(くらし2-2-2)

主な数値目標の状況

- 生活困窮者自立支援事業における就労・増収率(就労・増収者／就労支援対象者数)(39%)は、コロナ禍や物価高騰の影響もあり、R5年度を含め目標値(75%)を下回る状態が続いている
- 県事業によるひとり親家庭の就職者数(53人)は、前年度から横ばいでパート等の求人数が回復していない影響もあり、R5年度目標値(100人)を下回っている

課題等

- 生活困窮に至るリスクの高い世帯の顕在化
- 核家族化や地域とのつながりの希薄化に伴う家族や地域の養育力の低下
- 児童虐待に関する認識や理解の深まりによる虐待の顕在化
- 発達障害、虐待等に起因する特別な支援を必要とするこどもや家族の増加
- 急激な高齢化の進展に伴う認知症高齢者の増加

次期計画での主な取組

- 児童虐待、こどもの貧困、ひとり親家庭、ニートやひきこもり等困難を抱えるこどもや家庭の状況に応じたきめ細やかな支援(こども1-2-3)
- 高齢者、障害者等きめ細やかな対応が必要な人や家族等への支援、人権教育・啓発推進(くらし2-2-1)

主な数値目標の状況

- 新たな基幹産業4分野(半導体関連産業、航空機関連産業、AI・IoT・ロボット関連産業、海洋エネルギー関連産業)における売上高(算定中)及び雇用者数(算定中)は、最終目標に向けて概ね順調に推移していると推測
- スタートアップの創出・誘致件数(累計)(24件)は、前年度から増加し、R5年度目標値(21件)を上回っている
- 県内製造業の従業員一人あたり付加価値額(未公表)は、物価高騰等の影響もあり、遅れが生じていると推測
- 誘致企業による立地件数(累計)(23件)は、基準値から増加したもののR5年度目標値(30件)を下回っている
- 誘致企業による雇用計画者数(累計)(1,773人)は、前年度から増加し、R5年度目標値(1,500人)を上回っている

課題等

- 世界的なカーボンニュートラルの潮流の中、グリーン成長分野における新たな需要獲得とサプライチェーンのさらなる強化促進
- 成長産業への投資の呼び込みと県内中小・小規模事業者への波及、県内企業の競争力強化・取引拡大
- 県内スタートアップの集積と規模拡大
- 県内の中小・小規模事業者のデジタル化などの推進を通じた、事業者の「稼ぐ力」の強化

次期計画での主な取組

- カーボンニュートラル社会に向けた基幹産業の振興(しごと創造3-1-1)
- 商工団体等と連携した中小・小規模事業者支援(しごと創造3-1-2)
- 若者をはじめ幅広い世代に魅力的な企業誘致の推進(しごと創造3-1-3)
- スタートアップの創出や誘致強化、規模拡大支援(しごと創造3-1-4)

主な数値目標の状況

- ❑ 観光消費額(総額)(3,535億円)は、前年度から増加したものの、コロナ禍の影響もありR5年度目標値(4,040億円)を下回っている
- ❑ 県産品(水産物、農産物・木材、加工食品、陶磁器等)の輸出額(8,169百万円)は、中国での日本産水産物の輸入停止等により前年度から減少したものの、R5年度目標値(6,609百万円)を上回っている
- ❑ 外国人延べ宿泊者数(54.5万人)は、前年度から大きく増加したものの、コロナ禍の影響もあり、R5年度目標値(112万人)を下回っている

課題等

- 人口減少に伴う国内観光需要の減少
- 旅行ニーズや消費行動の多様化への対応
- 九州他県や全国と比べて低いリピーター割合
- ホスピタリティの向上と観光ガイドや宿泊施設などの人材不足
- 外国人延べ宿泊者数の回復の遅れ
- クルーズ需要の回復に対応した受入環境の整備

次期計画での主な取組

- 付加価値の高い旅を提供する観光まちづくり、戦略的プロモーション、観光産業の基盤強化(にぎわい4-1-1)
- 食の賑わいの場創出に向けた試行・実証やプロモーション(にぎわい4-1-2)
- 国際航空路線及びクルーズ客船の誘致(にぎわい4-2-1)
- 県産品のブランド力向上、付加価値の高い販路の拡大、重点国での輸出拡大と新規市場開拓(しごと創造3-1-7)

主な数値目標の状況

- ❑ 農業・林業産出額(1,653億円)は、前年度から増加しているものの、気象要件や生産資材の価格高騰等の影響もあり、R5年度目標値(1,739億円)を下回っている
- ❑ 生産農業所得(561億円)は、前年度から増加しているものの、生産資材の価格高騰等の影響もあり、R5年度目標値(653億円)を下回っている
- ❑ 海面漁業生産量(29万3千トン)は、前年度から増加し、R5年度目標値(29万1千トン)を上回っている
- ❑ 海面漁業産出額(709億円)は、前年度から増加し、R5年度目標値(632億円)を上回っている
- ❑ 1経営体あたり平均漁業所得額(4,646千円)は、前年度から増加し、R5年度目標値(2,633千円)を上回っている
- ❑ 海面養殖業産出額(529億円)は、前年度から増加し、R5年度目標値(392億円)を上回っている
- ❑ 水産食品加工品出荷額(未公表)は、コロナ禍における需要減少から回復傾向にありR5年度目標値(382億円)を上回る見込みである

課題等

- 気候変動等に伴う海洋環境や水産資源の変化への対応、国が策定したみどりの食料システム戦略の推進
- エネルギー、物価資材の高騰の継続、燃油高騰等による生産活動や輸送などへの影響
- デジタル・新技術の急速な進化に伴う農林水産業における実証、実用化の動き
- 多様で多角的な漁業を支える漁港の機能強化、頻発化・激甚化する自然災害への対応力強化
- 国内人口の減少、海外需要の増加に対応した輸出促進、食料事情の変化、中食・外食等の消費者ニーズの変化への対応

次期計画での主な取組

- 水産資源維持・増大、スマート技術や新漁法導入、経営多角化、養殖業の成長産業化、漁港の機能強化、バリューチェーン強化(しごと創造3-3-1)
- 農地・集出荷施設等生産基盤の整備、スマート技術等導入による生産性向上、バリューチェーン構築による販売力強化と輸出拡大(しごと創造3-3-2)

主な数値目標の状況

- 持続可能な地域づくりに取り組む地域(団体)数(158団体)は、前年度から増加したものの、R5年度目標値(160団体)を下回っている
- 農山漁村への移住者数(301人)は、前年度から増加しており、R5年度目標値(253人)を上回っている
- 地域包括ケアシステムの構築割合(100%)は、R4年度をもって最終目標(100%)を達成している
- 離島・半島地域における公共交通利用者数(17,711千人)は、前年度から増加したものの、コロナ禍の影響もあり、R5年度目標値(21,684千人)を下回っている
- 実用化されたICTを活用したサービスや仕組みの数(累計)(9件)は、前年度から増加し、R5年度目標値(9件)を達成している
- 戦略的な維持管理により適正に修繕された橋梁の割合(累計)(74%)は、前年度から増加しているものの、R5年度目標値(87%)を下回っている

課題等

- 人口減少や高齢化による医療・福祉、交通、買物、教育など日常生活サービス維持の困難化
- 地域公共交通利用者の減少、運転士不足
- 県内自治体業務の省人化・効率化及び県民利便性の向上
- 高度経済成長期以降に整備されたインフラ老朽化の加速度的な進行、著しい劣化による被害発生リスクの高まり

次期計画での主な取組

- 多様な主体の連携による地域コミュニティの維持・活性化の推進(まち5-2-2)
- 農山漁村におけるアグリビジネスや海業等の推進(にぎわい4-1-4)
- 医療・介護現場におけるテクノロジーの活用等による地域の実情に応じた地域医療体制の整備や地域包括ケアシステムの充実(くらし2-1-2)
- 交通事業者の経営安定化支援、市町と連携した最適な地域モビリティ推進(まち5-2-3)
- デジタル技術や人材を活用した地域課題解決、ドローン等先端技術を活用したイノベーション創出の推進、県庁DX(まち5-2-4)
- 災害に備えたインフラ施設整備、持続可能なインフラメンテナンス(まち5-1-1)

主な数値目標の状況

- 高速等ICまで30分で到達可能な本土面積の割合(75.9%)は、前年度から増加し、R5年度数値目標(75.9%)を充たしている
- 九州新幹線西九州ルート(武雄温泉～長崎)は、R4年度に武雄温泉駅での対面乗り換え方式で開業し、目標を達成している
- 主要な都市づくりプロジェクトの着手件数(累計)(3件)は、R5年度数値目標(4件)を下回っている
- 過疎地域等の人口減少率(社会減)(1.5%)は、前年度から改善しているものの、R5年度目標値(1.3%)を充たしていない
- 文化芸術イベント等に参加(鑑賞を含む)した県民の割合(25.3%)は、前年度から増加しているものの、R5年度目標値(42%)を下回っている
- スポーツコンベンション参加者数(九州大会以上)(13.0万人)は、前年度から増加しているものの、R5年度目標値(17.0万人)を下回っている
- 国際交流及び平和発信事業等への県民等参加者数(5,059人)は、前年度から減少し、R5年度目標値(6,671人)を下回っている

課題等

- 離島・半島地域における地理的な条件不利などによる人口減少、地域活力の低下
- 九州新幹線西九州ルート(新鳥栖～武雄温泉)の全線フル規格の早期実現
- 国際情勢の不安定化、被爆者の高齢化による被爆体験の風化、次代を担う平和人材育成の強化

次期計画での主な取組

- 離島・半島等の地域資源を活かした産業振興や交流人口の拡大等による地域活性化の推進(まち5-2-2)
- 高規格道路や港湾整備、航空路線拡充、長崎空港の運用時間延長(にぎわい4-2-1)
- 世界遺産・日本遺産の情報発信強化、文化芸術に触れる機会の提供、文化財の適正保存、スポーツイベント誘致、プロスポーツとの連携(にぎわい4-1-3)
- 九州新幹線西九州ルート(新鳥栖～武雄温泉)の全線フル規格に向けた情報発信・気運醸成(にぎわい4-2-2)
- 友好都市等の交流拡大、SDGsの次の国連目標に核兵器廃絶が位置付けられるよう国際社会等への働きかけ(にぎわい4-2-3)
- 持続可能な都市・地域整備支援、景観まちづくり、民間の創意工夫を活かした市街地整備(まち5-2-1)

主な数値目標の状況

- ❑ 刑法犯罪認知件数(全国トップレベルの治安水準の維持)(3,786件)は、前年度から増加したものの、全国トップレベルの治安水準を維持している
- ❑ 年間の交通事故死者数(36件)は、前年度から増加し、最終目標である30人以下を達成していない
- ❑ 県内で購入する食品に安心している県民の割合(87.4%)は、前年度から増加したものの、R5年度目標値(93.0%)を下回っている
- ❑ 消費生活センターにおける斡旋解決率(15.8%)は、前年度から低下したものの、R5年度目標値(12.7%以上)を達成している
- ❑ 風水害・地震などによる死者数(0人)は、前年度から引き続き、R5年度目標値(0人)も達成している
- ❑ 温室効果ガス排出量(二酸化炭素換算)(算定中)の削減は、概ね順調に進んでおり、R5年度目標値(873.4万トン)を達成するものと推測される
- ❑ 生物多様性保全と利用に関する取組への参加割合(45%)は、前年度から増加しており、R5年度目標値(30%)を上回っている

課題等

- サイバー空間をめぐる脅威の高まり
- 食品の安全・安心に関する情報の氾濫や消費者トラブルの手口の悪質・巧妙化
- 気候変動影響の顕在化、「循環経済」への移行と質の高い暮らしの実現の必要性の高まり
- 南海トラフ地震などの大規模災害への備えの充実強化、孤立集落対策、地域防災の担い手の確保

次期計画での主な取組

- 各種犯罪対策、交通安全対策(くらし2-3-1)
- 製造・流通における食品の安全性確保、食品の安全性の理解促進、消費生活苦情相談体制の維持・強化や消費者教育(くらし2-3-2)
- 温室効果ガス排出削減対策、気候変動の影響を予防・軽減する適応策(くらし2-3-3)
- ごみの減量化や再資源化、廃棄物適正処理推進(くらし2-3-4)
- 水・大気環境の保全の推進、生物多様性の保全、自然の恵みに関する理解促進と活用(くらし2-3-5)
- 動物殺処分ゼロに向けた取組、動物愛護管理の普及啓発(くらし2-3-6)
- 災害や有事を想定した実践的訓練、防災資機材の整備、基地との共存共生、消防団活動の充実強化、自主防災組織の結成促進(まち5-1-2)